

会 議 録		令和 5 年12月25日作成	令和 9 年 3 月末日廃棄
会議名	京都府舞鶴警察署協議会（令和 5 年度第 3 回）		
開催日	令和 5 年12月13日（水曜日）		
時 間	午後 1 時30分から午後 3 時までの間（90分）		
場 所	京都府舞鶴警察署 東庁舎講堂		
出席者	宮本会長、吉岡副会長、土井副会長、伊庭委員、福本委員、船越委員、加藤委員、桑村委員、澤江委員、矢野委員 （欠席 前田委員） 計10人		
	署長、副署長、会計課長、警務課長、生活安全課長、地域課長、地域課長代理、刑事課長、交通課長、警備課長、広聴相談係長 計11人		
諮 問 事 項	1 雑踏警備について 2 災害警備について		
会 議 内 容	1 会長挨拶		司会 副署長
	2 署長挨拶及び説明		
	3 協議		司会 会長
	諮問事項説明 (1) 雑踏警備について～地域課長 (2) 災害警備について～警備課長 【委員】 今年には舞鶴市内で観客 1 万 5,000人を動員する大型音楽フェスが開催されたが、舞鶴市では過去にそこまでの規模のイベントが開催されたことはなく、警察署には経験や参考データが全くなかったことと思う。そんな状況でも、懸念された事故やトラブル等は発生せず、無事に対応していただいた。しかしながら、来年は1日の観客数を今年の2倍にした上で、2日間にわたって開催することが既に発表されている。例えば飲酒の許可など、いろいろな状況が今年とは大きく変わる可能性もあるので、その辺を主催者側と十分に話し合い、今年と同様、何事もないようにしていただけたら良いと思っている。 災害警備については、舞鶴警察署の機能移転先である商工観光センターや舞鶴市東消防署は、水害の影響を受けやすい浜地区に存在する。		

会 議
内 容

したがって、建設計画が進行中である警察署・新庁舎は、震災や水害の影響をできるだけ受けたくないよう、十分に検討した上で建設を進めてほしい。

【委員】今年の舞鶴はコロナ明けに伴って様々なイベントが解禁となった。大型音楽フェスに至っては、市民の間では「とんでもないことになるのではないか」とか「当日は外出もままならない」と言われていたが、その予想を裏切り、整然と開催された感じだった。私の印象では、雑踏警備としては花火大会の方が大変だったろうと思った次第である。これらが無事に終わったのも、十分な下調べと事前検討によるものだと思うので、これからもよろしく願います。

災害警備については、近年はゲリラ豪雨や台風により西舞鶴の街が水害に遭うことが多いが、行政がその対策を進めておられるようなので、今後に期待したい。

【委員】災害警備については、今は気象庁の情報が早く詳細に出されるので、それらの情報をもとに、高齢・過疎となった地域住民の避難が迅速・的確に行われるよう考えていかなければならない。

【委員】私は花火大会の実行委員であるが、今後は花火大会と大型音楽フェスを舞鶴市の2大イベントとして継続する意見が上がっているので、警察にはこれから毎年、対応してもらうことになると思う。そんな中、大型音楽フェスは来年、「2倍の観客×2日間開催」という計画が既に発表されており、果たしてそんな巨大イベントを開催する力量があるのかと疑問視してしまう部分もある。したがって、その辺のことを警察が主催者側と十分に詰め、イベントを安全な方向へと導いてほしい。

災害については、中舞鶴地区では年1回、住民対象の防災研修会を実施しており、今年で14回目となる。我が地区は比較的災害の少ない地区だが、過去には全く予想していなかった川が氾濫したこともある。災害の少ない地区であっても油断は大敵であるという心構えを浸透させていきたい。

【委員】先日、舞鶴市内で小学生が被害に遭うひき逃げ事故が発生した。幸い小学生の命に別状はなく、運転者もすぐに判明したので胸をなでおろしたのだが、やはり忘れた頃にこのような交通事故が発生するので、普段からの見守りや声掛けが重要なことを再認識した。

災害については、あまり大きな被害を経験していない分、油断も多分にあると思っている。これを機会に今一度、非常食、持ち出し物品、避難場所などを点検しようと思う。

【委員】私が住んでいる地区の避難場所は、そこを挟むように大きな川が二

会 議
内 容

つ流れている。仮にその川の許容量を越える水が一時に流れ込んだ場合、果たして避難場所として機能するのだろうか。行政は今現在のハザードマップや避難場所を、完成したからもう終わりというのではなく、実態に即したものとなるよう常に見直して欲しい。

【委員】一例を挙げると、山の手入れは昔に比べてほとんどされなくなり、それが山の保水量の減少へとつながっている。そして、そのような変化が日々、ハザードマップの実態を変えている。過去に大丈夫だったからといって、見直しがおろそかにならないようお願いしたい。

【委員】私が居住している地区は、平成16年の台風23号で大きな被害が出た場所である。お陰様で以降に様々な対策が施され、今では同等の水害が押し寄せても心配のないレベルにまでなった。しかしながら、当時を経験した者は決してその記憶を忘れることはなく、非常時に持って逃げる物を常にまとめて家に置いている。そういう立場の者から見れば、今は油断の度合いが非常に大きいと感じる。「他が被害に遭っても私のところは大丈夫」と思っている人が多いようだ。大切なのは、個々が危機意識を持って考え行動することだと思う。

大型音楽フェスに関しては、「当日は街に出て行けない」と思っていたが、意外にもスムーズに行動できた。予定よりも観客が少なかったのかと思ったが、報道を見るとそうではなかったのも、裏には警察をはじめ多くの人々の苦勞があったことと思う。

【委員】近年は自治会に入らない人が多くなってきた。また、民生委員になっていただける方もなかなか見付からない。そして、このような状況が高齢者の避難をますます困難にしている。結局は地域ごとの問題であるのだが、警察もこのような現状を知った上で、災害警備に生かして欲しい。

【委員】大型音楽フェスに関しては、住民の事前予想では、自動車は全く通行できなくなると思われていた。それがあのようにスムーズに開催できたのは、警備をされた警察はもちろんであるが、住民一人一人が危機意識を持って行動したお陰だったと思う。当日に用事がある人は前日のうちに舞鶴へ来たり、舞鶴を出たりしたという話も耳にした。もし、主催者側がそういう裏事情を知らずに「今年が余裕だったから、来年は2倍×2日間の開催でも可能」と思っているのであれば、その考えは改めて欲しい。今年の成功は住民一人一人の行動によって導かれたものである。

災害警備については、私も先ほどの「川に挟まれた避難場所」を不安に感じている。よって、避難場所の見直しについては私も同感である。

会 議
内 容

【委員】先ほどの説明に「災害によって孤立が予想される世帯には個別に連絡を行う」という内容があったが、どのようにして対象世帯リストを作成されているのか。

【警察】地域警察業務の中に「巡回連絡」という業務があり、地域警察官は日々、地域住民の家庭を訪問している。それによって把握した連絡先と、地形や過去の状況等から割り出したマップを合わせることにより、孤立が予想される世帯のリストを作成している。

【警察】今年の台風7号では人的被害はなかったものの、再度、リストの見直しを命じ、常に実態に即したものとなるよう努めている。

【委員】イベント等でひとたび事故が起きると、主催者側の計画と実際に大きな差があったというのもよくある話である。舞鶴で開催されるイベントではその様なことがないよう、警察から主催者側に対してしっかり指導をしていただくようお願いする。

4 事務連絡

令和5年度第4回京都府舞鶴警察署協議会は令和6年2月中に実施予定である。

以上

第3回京都府舞鶴警察署協議会の開催状況

